



はちがく フラワーロス プロジェクト

八戸学院大学 川守田ゼミ

事業の概要・目的

フラワーロス（花の廃棄問題）をテーマに、学生が地域と連携しながら調査・実践を行った。アンケートや文献調査を通じて現状を把握し、地域イベント（七夕祭り・はちがくフェスなど）にてフラワーカフェやワークショップを実践。花の価値を再発見し、地域住民のウェルビーイング向上や循環型まちづくりを目指し、ソーシャルビジネスの可能性を探る。



活動内容

- アンケート調査フラワーロスに関する意識・行動を可視化するため、地域住民・学生を対象に調査を実施。
- イベント出店七夕祭りで花の廃棄削減をテーマにアップサイクル商品の展示・体験ブースを設置。はちがくフェスで未活用スペースを活かし花を身近に感じられる空間を創出。花を使ったドリンク・スイーツを提供し互換で花の魅力を体験してもらった。
- 幼稚園の訪問を通じて、花やフラワーロスの取り組みを広めた。

事業の成果

活動を通して、花の廃棄問題に対する市民の理解促進、地域住民・学生・地元事業者との交流の活性化、若者が地域課題に主体的に関わるきっかけの創出といった成果が得られた。また、SNSでの情報発信やイベント参加者の口コミを通じて、地域全体に花を無駄にしないライフスタイルへの意識が徐々に広がる波及効果も確認された。

SWOT分析の結果から想定される今後の戦略

SWOT分析の結果、本プロジェクトは、地域に根ざした実践力と体験型活動という独自性を持つ点が大きな強みであることが明らかとなった。これらは他の啓発活動にはない特徴であり、本事業の中核的な価値といえる。一方で、活動を単発で終わらせないための継続的な運営体制の構築や、地域・関係団体との安定した連携体制の再構築が今後の重要な課題として挙げられる。

今後は、これらの課題を改善しながら、

- 活動を支える運営の仕組みづくり
- 地域パートナーとの役割分担の明確化
- 次世代の学生への継承体制の整備

を進めることで、事業の持続性を高めていく必要がある。その上で、本プロジェクトを教育と地域連携を基盤としたフラワーロス啓発の実践モデルとして発展させ、他地域へも展開可能なソーシャルビジネスへと成長させていくことが期待される。

